



ほっと31号

ホームページ URL
<http://do-ren.ciao.jp>



* 「泣いちゃいけない」

北海道知的障がい児・者家族会連合会 会長 安田 由美
10月11日、娘の施設に面会に行きました。寒くなるので、防寒のジャンパーをもっていこうと思って訪ねました。現在、娘の施設はガラス越しの面会のみで、来年3月まで外出外泊ができません。

前回、8月に会いに行った時は「うち帰る、うち帰る」と繰り返し言っていましたが、今日はガラスの向こうで立ち止まり、帰る、と言いません。「今日は帰れないよ。みんなの風邪が治ったらうちに帰ろうね。」という「はい」といい、バイバイをします。でも私が立ち去るまで娘はそこを動かず、私は車で泣いてしまいました。しかし、ふと思ったのです。泣きたいのは私より娘だ、と。訳が分からないまま、楽しみにしている家に帰れず、どこにも出かけないまま園内で過ごしている娘の方が、ずっと泣きたいはずです。私は「泣いちゃいけない」と思いつつ、けど、やっぱり泣いて、思ったのです。

今、私ができるのは元気であること、娘の様子を職員さんに聞いていくことじゃないか、と。

コロナ感染症の先は見えず、何が正しいのか、どうしたらいいのか、正解はわかりません。でも、ワクチンだって、これまで何度もワクチン接種の事故もあり、手放して打ちたいとは思いません。今は手洗いをし、密を避け、マスクをし、抵抗力を落とさないよう運動と睡眠をしっかりすることで、コロナ感染が防げていると思います。治療している病院などでも、医療従事者の皆さんはきちんと対策をとり、感染を防いでいます。今できる事は、自分がかからないこと。私達は経験したことのない時代を過ごしていると思いますが、正しく情報を知り、この中で何ができるか、どうやったらできるか前向きに考えていくことが大事ではないでしょうか。

あるお母さんから「このまま、子供がいない生活に自分が慣れてしまうのが怖い」という話を聞きました。障がいを持った我が子を一生懸命育ててきました。どうしたらよいか悩み、悲しみ、悔しい思いをして過ごしてきた時間が、私達を親にしてくれました。

『子どもや兄弟の笑顔に早く会えますように!』

皆さんのお子さんや兄弟の方々への思いを、家族会に寄せていただけますなら幸いです。



* 向陽園コロナウイルス集団感染及び終息までの経緯報告

向陽園等利用者家族会 会長 飯田 壮一

向陽園は50名の入所者である。4月24日に利用者1名が、病院内感染が原因で発症した。その後、向陽園入所者9名(しらかばホーム中心)、職員2名、計11名の集団感染となった。感染者11名全員がPCR検査2回とも陰性となった後、全員が陰性のまま4週間経った7月2日に終息宣言が出され、現在は全員が元気に普段通りの日常生活をおくっている。

道家連事務局からの原稿依頼があり、今後、皆さまの施設で少しでも参考になればと思い、概略を報告いたします。

なお、この記載内容については、向陽園の施設長に表に出すことのできることを申し添えます。

1. 最初の感染者

4月10日⇒1名の利用者(A氏)が喉に食べ物を踏ませ、救急車で町内の病院に搬送され、2日間入院し、退院後発熱し、PCR検査結果24日に陽性判定で紋別の病院に入院。次の日、同じ「しらかばホーム」の利用者B氏が発熱し、27日に陽性と判明し病院に入院。

2. 現地対策班会議

4月28日 遠軽町で「第1回向陽園コロナ感染症現地対策班会議」の開催。

○出席者⇒北海道保健福祉部2名、オホーツク振興局1名、紋別保健所1名、遠軽町2名、施設長代理(法人理事長)。

・施設の事業継続のためバックアップの立場で5月6日まで遠軽町に滞在し、その後も対応するとの事だった。

3. PCR検査

4月27日・28日、利用者の濃厚接触者22名、向陽園全職員の計47名の検査を2日間実施。

29日・30日に結果判明⇒利用者3名 C・D・E氏(軽度)、看護師1名(軽度)、利用者3名はしらかばホームの病院化で療養し、看護師は厚生病院に入院。

4. しらかばホームの病院化

4月27日⇒北見赤十字病院長、振興局、紋別保健所の方が来園し、視察して、しらかばホームの病院化を決定した。

- ・日赤の医師1名を昼間向陽園に常駐し夜間は遠軽町のホテルに待機。
- ・看護師2名⇒24時間向陽園に常駐。
- ・事務員1名⇒常駐(データ収集)。

・しらかばの患者の生活介助は、向陽園職員複数名で行う。

○ しらかばホームを病院化できた要因

- ・ユニットが個室であった。生活環境及び衛生管理がしっかりしていた。
- ・職員のモチベーションが高いと判断した。

○ しらかばホームのゾーン分け

- ・レッドゾーン⇒患者の居る部屋(含・個室) しらかば8
- ・グレーゾーン⇒陽性が疑わしい人(含・個室) しらかば7
- ・イエローゾーン⇒防護服着脱所 しらかばホームの廊下

○ 医師・看護師の常駐

- ・利用者及び職員の体調が悪くなった時、すぐ診てもらえる安心感が強かった。
- ・例えば換気、消毒、薬服用等々にしても、どの程度するのか、すぐ聞くことができる。
- ・医師が利用者の症状を見ながら病院とのやりとりをしてくれる。
- ・特に最初の頃は、向陽園看護師がコロナ感染で入院していたため、日赤の看護師の24時間常駐は大変心強かった。また、感染予防方法の多くを学んだ。
- ・最初から、看護師の常駐は1か月間を予定していたようである。

5. その後の感染者

- ・4月30日～5月20日までの間で利用者4人、職員(夜勤者)1名、計5名の感染で、しらかばホームでの療養3名、病院に入院2名。

6. 終息宣言

計11名(利用者9名、職員2名)全員がPCRの結果2回とも陰性で、その結果から4週間経過した7月2日が終息宣言日だった。

7. 施設長の話

- ・コロナ感染報道がなされてすぐ、保護者の面会・帰省を取りやめ、職員との話し合いで感染予防の徹底を図ったが、思いもよらぬところからの感染だった。
- ・最初の頃は、マスク、アルコール消毒液、滅菌ガーゼ、エンボス手袋が不足しており、ゴーグル、防護服、プラスチック手袋は全くなかった。
- ・最初に感染した3名にはPCRが判明するまで、職員1名ずつが昼夜を問わず付き添ってくれた。この間の職員と部屋の確保が大変だった。付き添い及びレッドゾーン担当者の感染を防げたのは、病院関係者の指導のもと職員がしっかり実施したからと思う。
- ・最初の1週間は次々と感染者が出て、必死でその場の対応に追われていた。
- ・向陽園職員及び他の事業所の応援職員が、日々の想いや使命感から誰も「逃げない! 辞めない! 頑張るぞ!」と全職員一丸となって苦難の57日間を乗り越えてくれた。
- ・病院関係者はもとより、振興局、道東障がい者施設等、数多くの関係者に支援を得て最小限の感染者にとどめて終息できたことに感謝しています。

しらかばホーム見取図										
					窓			窓		
			個室	しらかば7	しらかば8			個室		
		かえで		グレーゾーン	レッドゾーン					
		ホーム	個室	居間	居間			個室		
			個室					個室		
			個室		トイレ			個室		
					洗面・洗濯機					
			個室		シャワー			個室		
			廊下 イエローゾーン						玄関	外
		厨房		食堂				会議室		
				使用中						



「新型コロナウイルス」障害者支援施設の SOS に応えて

～北見赤十字病院を中心とした医療チームの派遣～

You tube で向陽園の取り組み動画がご覧になれます。

(https://www.youtube.com/watch?v=L2A8VdbWIOI&feature=emb_title)

